

小 学 校

平 成 4 年 度

教育研究員研究報告書

生 活

東京都教育委員会

平成4年度

教育研究員名簿

分科会	氏名	地区名	学校名
第一学年	◎ 関口敏子	台東	金曾木小学校
	□ 黒澤幸子	世田谷	京西小学校
	多賀敦子	豊島	大成小学校
	大沼敏恵	荒川	第五峽田小学校
	藤本佳子	江戸川	清新第三小学校
	小池康子	立川	多摩川小学校
	佐藤千とせ	東大和	第二小学校
第二学年	中川由美子	品川	大井第一小学校
	安念英子	北	滝野川第三小学校
	○ 落合文江	八王子	由井第二小学校
	大沼啓子	武蔵野	第二小学校

全体世話人 ◎

副世話人 ○

記録 □

担当課長 小島 宏

教育庁指導部初等教育指導課

担当指導主事 北村 文夫

教育庁指導部初等教育指導課

目 次

I 研究主題・研究主題設定の理由	2
「一人一人の児童の活動意欲を高めるための支援の在り方」	
II 目指す児童像の設定	2
・自分なりの思いや願いをもって活動できる児童	
・友達と協力して活動できる児童等	
III 研究の全体構想	3
・研究のねらい	
・目指す児童像	
・研究仮説の設定	
IV 研究の内容・方法	4
・評価計画	
・学習状況の把握	
・支援計画の作成	
V 研究の経過	4
・単元の指導計画の作成	
・研究の全体構想の設定	
VI 実践事例	5
<その1> 児童のつぶやきを町たんけんにした事例（第2学年）	5
「とびだせたんけんたい」	
<その2> 飼育活動を通して生命の大切さに気付かせた事例（第1学年）	11
「ウサギさんとなかよしになろう」	
<その3> 年間を通して季節の変化に気付かせた事例（第1学年）	17
「秋と友達」	
VII 研究の成果と今後の課題	23

＜ 要 約 ＞

平成4年度・教育研究員生活部会は、「一人一人の児童の活動意欲を高めるための支援の在り方」を研究主題にかかげ授業研究を中心として研究を進めてきた。

研究を進めるに当たっては、「目指す児童像」を明らかにし、各単元にかかわる児童の実態の把握に努めるとともに、予想される児童の活動に即した支援例を考えるようにした。また、教師の一人一人の児童の活動の見とり方についても検討することにした。

研究主題

一人一人の児童の活動意欲を高めるための支援の在り方

I 研究主題設定の理由

低学年の児童は、自分が興味・関心をもっている事象に対しては、夢中になって働きかけ、活動に没頭すると言われている。しかし、最近の児童の生活状況については、身近な社会や自然と直接かかわる体験の不足から、物事に主体的にかかわることができない等の実態が指摘されている。

本部会で実施した実態調査の集計結果からも、自然と触れ合う体験の不足がみられた。

そこで、生活科の授業に当たっては、特に一人一人の児童が身近な社会や自然にかかわったときにもつ、「やってみたい」「できるようにになりたい」などの願いを生かした活動を構成し、教師は、その願いの実現へ向けて、児童の活動意欲を高めるよう支援していくことが重要であると考えた。そのために、一人一人の児童の活動に目を向け、児童理解に基づいた支援を行うことが必要であり、またその支援が適切であったかどうかを、児童の活動状況を通して評価することが大切である。これらのことを積み重ねることによって、児童は自分のよさや可能性に気づき、次の活動への意欲をもつことができると思われる。

上記のような考えに基づいて、研究主題を「一人一人の児童の活動意欲を高めるための支援の在り方」とし、生活科の授業をするに当たって重視する必要がある教師の役割、特に、教師の支援を中心に研究を進めることにした。

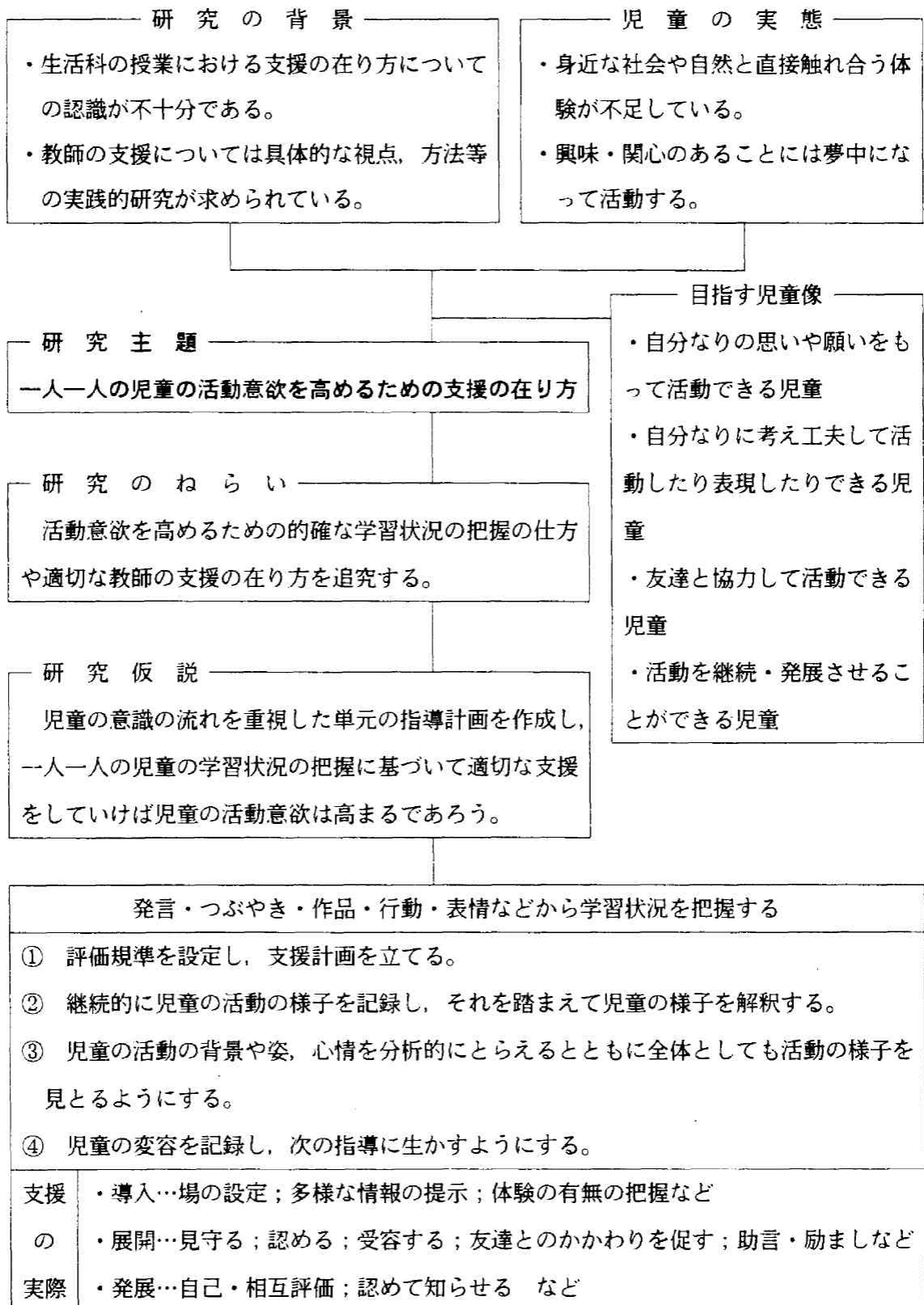
II 目指す児童像の設定

一人一人の児童が、意欲的に活動を進め、自らのよさに気づき、自信をもって行動できるようになることを目指して、次のような児童像を設定した。

- (1) 自分なりの思いや願いをもって活動できる児童……………意欲的・積極的に身の回りの事象にかかわり、自分なりの思いや願いをもって行動できる。
- (2) 自分なりに考え、工夫して活動したり表現したりできる児童……………活動の中から様々なことに気づき、自分なりに考え、工夫して活動したり表現したりできる。
- (3) 友達と協力して活動できる児童……………友達、家族、地域、学校などの様々な人とかかわることができる、互いに協力して活動できる。
- (4) 活動を継続・発展させることができる児童……………「もっとやってみたい」「次は、こんなことがしてみたい」など、積極的に対象に働き掛け、継続・発展して活動できる。

これらを受けて、各单元ごとに更に具体的な目指す児童像を設定し、单元全体を通して、一人一人の児童の活動意欲を高めるようにする。

III 研究の全体構想



IV 研究の内容・方法

本年度の研究主題「児童の活動意欲を高めるための支援の在り方」を追究していくためには、児童の実態や学習状況を的確に把握することが重要であり、また、児童のよさや可能性を発見し、伸ばしようとする姿勢を教師自身もつことが大切である。

そのため、以下のように研究を進める。

1. 評価計画の作成

教師の支援の視点として、児童指導要録の3つの観点（関心・意欲・態度、思考・表現、気付き）を参考として小単元毎の評価規準を設定し、評価計画を立てる。

2. 支援計画の作成

評価規準に基づいて支援の必要な児童の姿を予測し、具体的な支援の方法を考える。

3. 学習状況の把握

- (1) 児童の発言、つぶやき、作品、行動、表情等、児童のありのままの姿を継続的に記録し、それを踏まえて児童の活動を見とり変容をとらえることができるようにする。
- (2) 児童の姿や心情、行動の背景を実態調査や記録から、分析的にとらえるようにする。

4. 授業の分析と考察

授業を通して支援の方法を明らかにするために、児童の様子や教師の活動の記録をとるとともに、適切な支援の在り方について検討する。

V 研究の経過

1. 東京都教育庁指導部作成の指導資料や東京都立教育研究所作成の研究紀要、先行研究等を手掛かりに、今年度の研究主題を設定し、単元の指導計画の作成や授業の在り方、支援や評価等について検討した。
2. 研究を具体的なものにするため、「目指す児童像」を明確にした。
3. 主題を探る授業を実施し、研究の視点の明確化を図った。
4. 主題への迫り方や研究仮説について検討し、研究の全体構想を立てた。
5. 評価規準を設定し、「育てたい児童像」とそれを実現するための視点を明確にし、検証授業を行った。（「目指す児童像」を更に具体的にするため「育てたい児童像」とした）
6. 一人一人の児童の活動の様子を記録することにより、学習状況を把握し、教師のかかわりなどについて分析・考察した。
7. 分析・考察した結果に基づき、児童のよさや可能性を見出す教師の支援の在り方を追究することにした。

VI 実践事例

研究主題の達成を目指して、各学年で検証授業を行ってきた。その中から、(1)児童のつばやきを町たんけんにかした事例、(2)飼育活動を通して生命の大切さに気付かせた事例、(3)年間を通して季節の変化に気付かせた事例を取り上げ、分析・考察することにする。

<その1> 児童のつばやきを町たんけんにかした事例（第2学年）

1 単元名 「とびだせたんけんたい」

2 単元のねらい

- (1) 周りの自然や社会の様子を見たり、それらと親しんだりすることを通して、春の季節感を味わうことができる。
- (2) 自分なりに興味・関心をもって町を探検したり、町の人々と適切にかかわったりすることによって、町の自然や社会について関心をもつことができる。
- (3) 探検して見付けたことや気付いたことを、自分なりの方法でカードに書いたり発表したりすることができる。

3 研究主題とのかかわり

(1) ここで育てたい児童像

- ・ 身の回りにある自然や社会を観察したり、疑問を感じたり、発見したりすることの楽しさを味わうことのできる児童。
- ・ 観察・探検の様子や喜び、気付いたことを追究したことなどについて、工夫して表現できる児童。
- ・ 探検活動に没頭し発見したり追究したりするなかで、身の回りの自然や社会と自分の生活とのかかわりに気付く児童。

(2) 児童像に迫る手立て

- ・ 探検活動に没頭できるようにするため、活動時間を十分に確保するとともに安全については十分に配慮する。
- ・ グループについては、1回目の探検は生活班、2回目の探検と発表活動は一人一人の児童の興味関心に応じた目的別グループとする。
- ・ 表現活動がスムーズにできるようにするため、発見カード、はてなカード、劇化、インタビューごっこ、クイズ、ペープサート、写真など多様な表現活動を促すとともに教育機器の活用も効果的に図るようにする。
- ・ 身近な地域の自然や社会・人々とのかかわりをとらえることができるようするために

探検活動において自分なりの課題をもって追究するようにする。

4 指導計画 (16時間)

- (1) 春の色・においさがしをしよう。…………… 3時間
- (2) 町たんけんをしよう。…………… 9時間
- (3) たんけんはっぴょう会をしよう。…………… 4時間

小単元の展開

	ねらい	児童の活動	支援等	学習状況の把握
2 町 たん けん を し よ う	・自分なりに興味をも って町探検をした り、町の人々とか かわった りする。 ・町探検 を通して 今まで自分 が知ら なかった ことを新 たに発見 する喜び を味わ うことが でき る。	1. 探検の準備をしよう。 ・探検してみたいこと について話し合う。 ・班ごとに、探検する 所、見てくること、 聞いてくることなど について相談し、計 画書に書き込む。 ・持ち物・時間・探検 のマナーについて話 し合う。 2. とびだせたんけん たい(Ⅰ) ・班ごとに探検する。 駅の方・畑・玉川上 水 ・見付けたことは、発 見カードやはてなカ ードに書き込む。 3. 見付けたこと ・見付けたことにつ いて話し合う。	・OHPで生活科マッ プを映し、町の様子 について話し合うこ とにより探検への意 欲付けをする。 ・探検計画書の用紙を 用意する。 ・探検先が決まらない グループには共に考 える。 ・交通事故に気を付け る、正しいマナー、 時刻を守る等につ いて押さえる。 ・保護者の協力も得て 児童の安全を確保す る。 ・教師は全体をみて回 り、グループの実態 に応じて援助する。 ・友達のカードをOH Pに映し、みんなで 話し合い、いろいろ	<関心・意欲・態度> 探検をしてみたいという 気持ちになる。〔発言・ 行動観察〕 <思考・表現> 探検の計画を立てる。 〔発言・カード〕 <関心・意欲・態度> 町の自然や社会に触れ、 見たり聞いたりする。 〔発言・つぶやき・行動 観察・カード〕 <思考・表現> 発見・はてなカードを書 く。〔カード〕 <気付き> 町の自然や社会について 発見したり、疑問をもっ

	<ul style="list-style-type: none"> ・見付けたことをもとにして、次の探検の目的について考える。 ・同じ目的の児童でグループを作る。 ・グループごとに話し合い、次の探検の計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか目的のもない児童には、一対一で話し合い、児童の願いを引き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・な発見や疑問があることに気付くようにする。 ・関心・意欲・態度 ・発言・つぶやき・カード・あのねノート ・2回目の探検をしてみたという気持ちになる。 ・観察・カード
--	---	--	---

< A児のつぶやきを次の活動に生かした場面 >

校庭での春探しするとき、消極的だったA児。探検活動（Ⅰ）で「自転車が落ちていたよ。」と話しかけてきたので「自転車なんか落ちてるの。よく見付けたね。」と声かけをした。この日の発見カードには自転車が落ちていたことが書かれていた。そして、探検活動（Ⅱ）の目的をもつ場面で、なかなか目的が決まらないようなので、「A児君、とてもいいこと発見してきたじゃない。カードに自転車のことを書いてたけど自転車のことで何か見付からないかな。」と声掛けをした。



< ゴミの山 >

その後A男は、探検活動（Ⅱ）をゴミ・自転車探検をすることに決め、ポケットカメラでゴミや自転車の捨ててある所を写真にとることにした。左の写真が探検（Ⅱ）で撮ったものである。

<p>4. とびだせたんけん</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・探検発表会をすることを知らせ準備のときに取材方法などを考えることができるようにする。（テーブルコーダー等） ・行き先の分かってい 	<ul style="list-style-type: none"> ・関心・意欲・態度
--------------------	--	--	---

		<p>たい(Ⅱ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的別に探検隊をつくり計画にそって探検する。 <p><u>お店探検隊</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・お店の名前は ・どんな物を売っているか。 ・よく売れるものは何か。 	<p>る店や農家には、あらかじめ連絡し協力を依頼しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の協力も得て児童の安全を確保する。 	<p>自分たちの課題にそってみたり、聞いたり、調べたりしようとする。〔発言・行動観察・つぶやき・カード・あのねノート〕</p> <p><思考・表現></p> <p>探検して発見したこと、調べたことをカードに書き込む。〔カード〕</p> <p><気付き></p> <p>課題にそって町の自然や社会について気付く。</p> <p>〔カード・発言〕</p>
<p>3 たんけん発表会をしよう(4)</p>	<p>探検の様子や発見したことなどについて工夫して発表することができる。</p>	<p>1. 発表会の準備をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探検の様子、発見したこと、はてなと思ったこと、調べたことなどについてグループでまとめる。 ・まとめたことを発表するための方法を工夫する。 ・撮ってきた写真を皆に見せよう ・絵に描いて見せよう。 ・ペープサートをつくろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに相談し、発見したことや分かったこと、調べたことについてまとめることができるようにする。 ・友達がよく分かるように、また、楽しく見ることができるように発表の方法を考えて準備するようにする。 <p>(OHP, 実物拡大投映機, 大スクリーン等)</p>	<p><関心・意欲・態度></p> <p>発表活動に意欲的に取り組もうとする。〔行動観察〕</p> <p><思考・表現></p> <p>発表の方法を工夫する。</p> <p>〔発言・行動観察〕</p>

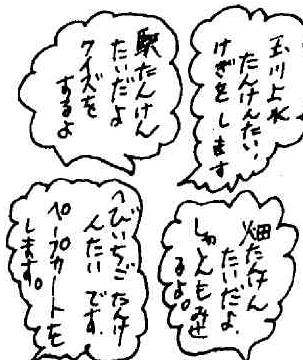
	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の練習をする。 プログラム, 司会, ・初めと終わりの言葉の役割分担をする。 <p>2. 探検発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラムにそって探検隊ごとに発表する。 	<p><関心・意欲・態度></p> <p>発表活動に意欲的に取り組もうとする。〔行動観察・発言〕</p>
--	---	--

5 本時の指導 (15/16)

(1)ねらい ○探検の様子や探検を通して気付いたことなどについて、友達が分かるように発表することができる。

○友達の発表をみたり、聞いたりして、町の自然や社会の様子について新たな発見をする。

(2)展開

児童の活動	指導の手立て・教師の支援等		学習状況の把握 (評価規準)
<p>1. 探検発表会をしよう</p> <p>プログラム</p> <p>①はじめの言葉</p> <p>②たんけんの歌</p> <p>③各たんけんたいの発表 (発表の後に質問コーナーを設ける)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアルームにマイク, 小ステージを用意し, 発表会の雰囲気を作る。 ・壁にプログラムを掲示する。 ・大きな生活科マップを壁にはり, 児童が活動の空間をとらえ易いようにする。 ・児童の司会で進める。 ・OHP, 実物拡大投影機などの機器は使い易いようにセットしておく。 	<p>○声がおりにくい児童</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイクを近づける。 ・ゆつくり読むようにする。 <p>○質問をした児童</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほめる・うなづく・共感する。 <p>○認めてほしいと思っている児童</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の中から認める発言を促す。 ・意味付けして, ほめる。 	<p><関・意・態></p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会に楽しく参加しようとしている。 〔行動観察, つぶやき〕 <p><思考・表現></p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達が分かるように発表できる。〔行動観察, 発表活動〕 <p><気付き></p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表を見て新たな発

<p>④今日の終わりの言葉</p> <p>2. 発表をみて思ったことを言おう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな声で上手だった。 ・僕も行ってみたいな。 ・ペープサートが楽しかったよ。 		<p>○失敗したと思っている児童。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頑張ったことを取りあげほめる。 	<p>見をしたか。</p> <p>[行動観察, 発言, つぶやきあのねノート]</p>
---	--	--	---

6 実践をふり返って

(1) 学習状況の把握

ア. 一人一人の児童が発見した喜びや驚き疑問を書くことによって、次の活動への意欲を高めることができると考え、発見カード、はてなカード、先生あのねノートなどを活用した。そのことが児童のその時その時の気持ちを把握する一助となった。

イ. 児童の学習状況を把握するために、児童のつぶやきや行動、カードに書かれた内容及び教師からの質問、分かったことや必要な情報を、児童一人一人について記録した。その結果、一人一人の児童の変容をとらえることができた。

(2) 支援の在り方

ア. 一人一人の児童の活動意欲を高めるために、自分なりの願いを児童がもてるよう、つぶやきや発言を的確にとらえるようにした。例えば、探検活動においては、目的のはっきりしないグループに寄り添い、児童のつぶやきを聞きのがさないようにし、それを生かすように努めた。そのことによって児童の活動意欲を高めることができた。

イ. OHP, 実物拡大投影機, 大スクリーン, インスタントカメラ, テープレコーダーでの録音等教育機器を児童が使いこなすことによって多様な発表ができるようにした。

(3) 今後の課題

ア 単元を通して継続的に記録することの大切さは分かったが、今後は、より効果的な記録の取り方を工夫する必要がある。

イ 教師は何が教材化できるか見抜く力を磨き、活動意欲の高揚を図るようにすることが大切である。。

ウ 児童のつぶやきや声を手掛かりとして指導計画を修正していくことが大切であるが、それに当てる時間配当等について検討することが大切である。

<その2> 飼育活動を通して生命の大切さに気付かせた事例（第1学年）

1. 単元名「ウサギさんとなかよしになろう」

2. 単元の目標

- ・ 飼育小屋にいるウサギなどの動物に関心を持ち、ウサギと一緒に遊ぶ楽しさを味わうことができる。
- ・ えさを与える、糞の始末をするなどの世話をする活動を通して、ウサギも自分たちと同じように生命をもっていることに気付き、大切にすることができる。
- ・ ウサギとの触れ合いを動作や絵、手紙などで表現することができる。

3. 研究主題とのかかわり

(1) ここで育てたい児童像

- ・ ウサギを抱いたり、遊んだりする活動を通して、ウサギに親しみがもてる児童。
- ・ ウサギの糞や尿の始末をし、えさをやる世話を通して命の大切さに気付く児童。
- ・ ウサギの様子を絵に描いたり、真似をしたりして表現できる児童。

(2) 児童像に迫る手立て

- ・ 一人一人の児童にウサギと十分触れ合わせるために、ウサギの数や活動時間を適切に確保する。
- ・ グループは、飼育経験の有無、動物の好嫌等を考慮して、学び合い励まし合って活動できるように、異質グループの編成とする。
- ・ 表現活動をスムーズにさせるため絵、文、動作など多様な表現活動を促す。
- ・ 飼育活動の時間を保障し、ウサギとのかかわり方が、ペット的扱いから生命尊重へと変わるように、糞や尿の始末、えさを与えるなどの世話に責任をもたせる。
- ・ 一人一人の児童の活動の記録を継続的にとり、学習状況を的確に把握する。
- ・ 児童の願いや実態を正しく把握するとともに、単元を通して育てたい児童像を明確にし一人一人に対して具体的に支援していくようにする。
- ・ 評価規準を設定し、重点的に支援する児童については、単元を見通して計画を立て、特定の児童にのみに支援が片寄らないようにする。
- ・ より適切な支援をするため、予想される支援の例を考えておく。
- ・ 「座席表指導案」を活用し、特に気になる児童に対しては、活動の様子と支援を記録し、授業後、支援が適切であったかどうか自己評価カード等で分析する。

手立て・支援等	学習状況の把握（評価規準・方法）		
	関心・意欲・態度	思考・表現	気付き
<p>ちとの触れ合いの機会を多くする 休み時間の世話の様子に関心をも さんは、どうしているかな。 いことをカードに書かせ、一人一 る。</p>	<p>・ウサギと遊んで みたいという気持ちになる。〔発言 ・行動観察〕</p>	<p>・ウサギとの遊び 方を自分なりに考 える〔カード〕</p>	

道具は、のこぎりとし、カッター
安全面での配慮)
の中に毒草がないか調べておく。
とを保護者に事前に連絡し、アレ
に対する配慮は慎重にする。
気等を十分にする（保健衛生面で
朝、20分休み、昼休みにさせる。

・学級でウサギを
飼うことに意欲的
に取り組もうとす
る〔発言・行動観
察〕
・えさやりや小屋
のそうじを継続的

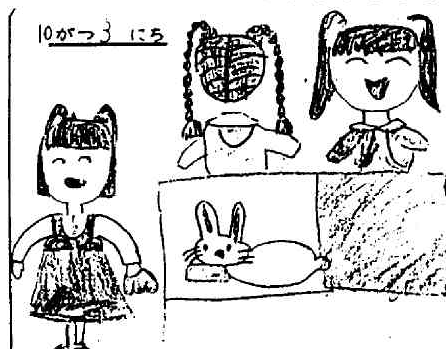


〈ウサギ小屋の新聞紙をとりかえる児童〉



〈お別れ会〉

〔抱き方「No.1」のC児〕
ウサギも安心(?)



10がっす にち
1はぱんから9はんまでうさぎとうは
んをしました。そしてわたしたちの9はん
のとうはんのときいはいしんぶんこ
おしごとかうんちをたくさんしてしま
た。いまがわさんとみうたさんとう
つのみやさんとわたしでしんぶんをと
りかえるときすごくたいへんでした

・ウサギとの別
れのつらさに気
付き。〔発言・
手紙・絵〕

5. 指導の実際 (2 / 7 時間)

(1) ねらい

- ウサギにさわる、抱くなどの活動を通して、ウサギとの触れ合いを深め、一緒に遊ぶ楽しさを味わうことができる。

(2) 展開

児童の活動	指導の手立て	教師の支援例	学習状況の把握																				
<p>1. ウサギとどんなことをしたいか確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> さわる 抱く 一緒に走る えさをあげる <p>2. ウサギと遊ぶ時に、気を付けることを確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ウサギの抱き方 すわって抱く 耳は持たない けがをしたとき 糞や尿の始末 	<ul style="list-style-type: none"> ウサギは暑さに弱いので、日陰のない外(校庭)は避け、体育館での活動計画を立てた。 糞や尿が、かかることがあるので体育着に着がえさせる。 消毒液を用意した。 ゴミ箱・トイレトペーパー・ビニル袋を用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の「座席表指導案」で、児童一人一人がウサギと何をしたいのか、確かめておいた。 本時に重点的に援助をする児童の前時での活動の様子を確かめておいた。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>氏名</th> <th colspan="2">A</th> <th colspan="2">B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>☆学習状況</td> <td>① ◎</td> <td>② ○</td> <td>① ◎</td> <td>② ○</td> </tr> <tr> <td>児童の活動の様子(つぶやき)(カード)</td> <td colspan="2">ウサギはけががたくさんはえている</td> <td colspan="2">ウサギはおとなしいいつも鼻をもぐもぐしてる</td> </tr> <tr> <td>教師の支援</td> <td colspan="2">(砂遊びをしていたので)ほかにみつけたことないかな。</td> <td colspan="2">このウサギなら、Bさんも抱けるようになるかもしれないね。</td> </tr> </tbody> </table>	氏名	A		B		☆学習状況	① ◎	② ○	① ◎	② ○	児童の活動の様子(つぶやき)(カード)	ウサギはけががたくさんはえている		ウサギはおとなしいいつも鼻をもぐもぐしてる		教師の支援	(砂遊びをしていたので)ほかにみつけたことないかな。		このウサギなら、Bさんも抱けるようになるかもしれないね。		<p>☆学習状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ウサギと遊んでみたいという気持ち ②ウサギとの遊び方を考える <p>・ウサギと遊んでみたいという気持ちになる <発言・カード></p>
氏名	A		B																				
☆学習状況	① ◎	② ○	① ◎	② ○																			
児童の活動の様子(つぶやき)(カード)	ウサギはけががたくさんはえている		ウサギはおとなしいいつも鼻をもぐもぐしてる																				
教師の支援	(砂遊びをしていたので)ほかにみつけたことないかな。		このウサギなら、Bさんも抱けるようになるかもしれないね。																				
<p>3. ウサギと遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の願いにそって、グループごとに遊ぶ。(4人～5人の9グループ) 	<ul style="list-style-type: none"> グループに分かれて遊ぶよう場所を指示する。 1グループに1羽ずつウサギを用意する。 	<p><支援1>活動場面で</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ウサギに触れることのできない児童 「○○さんが抱いているウサギにさわってみたら」と声をかける。 教師が手をそえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ウサギと積極的にかかわろうとしている <つぶやき、行動観察> 																				

○ウサギを抱くことのできない児童

- ・友達が抱いているウサギを、教師が手をそえて抱かせてあげる。



<実際には>

- ・グループの友達が、積極的に手を貸してあげようとしていた。
- ・こわいけれど助けを借りずに自分で抱きたいと挑戦していた児童も多かった。

・ウサギに対する関心は強いが「こわい」ということがつぶやきや行動からよみとれる。

<こういうふうには……抱けた!!よかったね>

○ウサギに触れたり抱いたりして十分遊べる児童

- ・ほめてあげる。
- ・気付いたことを聞いてあげカードに書くよう促す。

○ウサギにひっかかれた児童

- ・消毒液をつけ、その後の様子を見る。ウサギに対する不安を抱かないようにする。

・ウサギと楽しく遊ぶことができる。
<自己評価カード>

・哺乳類のウサギを取り上げる際、さまざまなトラブルを予想したが、児童の意欲・関心は、活動が進むにつれて高まり、糞や尿の始末もいやがることなく休日の世話も喜んでやっていた。

<単元を通した支援をするために>

氏名	児童の実態 (児童の願い)	担任の願い (単元終了時までに到達してほしい目標)	①		第 1 時		⑨ 第 7 時	
			うでウサギ 抱み持た ちいと遊 べん	へびウサギ カードを 考え る遊	児童の様子	教師の支援	思えるウサギ にまさと別 けなれ	児童の様子
A	・小動物に対する関心は強いが一人じめがち。 (ウサギを抱きたい)	・友だちと協力してウサギの世話ができるようにさせたい	◎	○	カードに簡単に記入後、砂遊び。	「ほかにみつけたことない」と声をかける	○	みつけたこと10こになったよえさもあげたし、新聞もかえたし。
B	・ザリガニのえさやり、水かえはよくできるがウサギは見ていだけ (ウサギとお話したい)	・何事にも慎重であるがウサギにも関心はある。触れたり、抱いたりさせてあげたい。	◎	○	「このウサギおとなしいね」となりの○○さんに話している	「このウサギならさわれそうね」	◎	「これからもずっと教室で飼いたいな」

※①②は各時間の評価規準、単元終了時までに9項目評価。第3時以後1時間1項目とした。

6. 実践を振り返って

(1) 学習状況の把握

ア 一人一人の児童が自分なりの願いをもつと、活動意欲も増してくる。そこで、1学期の「学校探検」の時に関心をもった子ウサギの成長を朝の会で発表するなどして、関心を高めるようにした。単元の始めに「ウサギさんしてみたいこと」をカードに記入させたが、願いの持てない児童はなく、「抱きたい」「走りたい」「教室で飼いたい」等、ウサギとかかわりたいという願いの強さが感じられた。

イ 学習状況を的確に把握するため、一人一人の児童の活動の記録を継続的にとったが、その結果、授業が進むにつれ、一人一人の変容が明らかにされ、適切な支援をするのに役立った。

ウ 飼育経験の有無、ウサギに対する感じ方等、単元の始めは個人差が大きかったが、活動時間を十分確保することや継続的な飼育活動により、単元終了時には全員が親ウサギを抱けるようになった。飼育日記やお別れ会での活動が自信につながったものと思われる。

(2) 支援の在り方

ア 評価規準を設定し、授業中担任が記録できることと、授業後、カードや作品を手掛かりに記録できることを明確に、授業中は記録より支援に努めた。

イ カードは、自己評価の他に、友達に教えてもらったこと、教えてあげたいこと、飼育の仕事分担等、相互評価もできるようにした。

ウ 児童の様子から、当初の支援の計画にずれが生じてきた児童もいたので、行動分析、カード分析により支援の計画変更を途中で行った。

エ 座席表に、児童の様子、教師の支援を記録することで、単元を通しての記録が整理でき一人一人の児童に対するより適切な援助が可能となった。

(3) 今後の課題

ア 単元を通して継続的に記録をとることは、より適切な支援を可能にするが、記録の整理に時間がかかりすぎるので、より効果的な記録のとり方の工夫が求められる。

イ 教師はA児にはもっと対象とかかわってほしいと願っても本人は十分と感じていたり、B児には、もう十分対象とかかわったと評価しても本人はまだ不十分と感じていることがある。改めて児童理解を深めていくことが大切である。

ウ 小鳥や金魚、ザリガニにくらべ、哺乳類の方が自分たちと同じように「生命」をもっているという印象が強いことが児童の記録や活動から明らかとなった。飼育活動を工夫したい。

<その3> 年間を通して季節の変化に気付かせた事例 (第1学年)

1. 単元名 「秋と友達」(18時間)

2. 単元の目標

- (1) 草木の葉や実を拾って遊んだり、虫を探したりするなかで、季節による自然の変化に関心を持ち、自然に接する楽しさを味わうことができる。
- (2) 身近な自然や社会のなかから「秋」を見付け、春や夏との違いに気付くことができる。
- (3) 友達と協力して、自分で見付けた「秋」を絵や文で表したり、草木の葉や実を使っておもちゃ作りをしたりすることができる。

3. 研究主題とのかかわり

(1) ここで育てたい児童像

- ・ 草木の葉や実を使って楽しく遊ぶ児童
- ・ 草木の葉や実を使っていろいろな形や遊ぶものを工夫して作る児童
- ・ 友達と活動する喜びが分かり、友達のよさを認める児童
- ・ 身近な自然や社会から「秋」を見付け、季節の変化を感じとり、自然に関心をもつ児童

(2) 児童像に迫る手立て

- ・ 朝の会で行っている「みつけたこと」の発表を生かし、単元の導入段階を工夫する。
- ・ 諸感覚を駆使して自然と触れ合う体験からの発見を生かして、活動意欲を高めていく。
- ・ 絵や文や動作など多様な表現方法を取り入れ、自分なりに表現できた自信をもたせる。
- ・ 教え合ったり作ったり遊んだり発表し合ったりする活動から、人とのかかわりを深める。
- ・ 自己評価、相互評価を工夫し、活動の振り返りの場を設定する。
- ・ 年間を通した活動になるように「なかよしの木」の変化をとらえる活動や栽培してきたものや「ドングリだんご」を作って食べる活動を取り入れる。

4. 指導計画(18時間)

(1) 年間の計画(環境教育の視点を重視して)

- 1学期 身近な自然に十分に触れ合い、自然に関心をもつ。
- 2学期 自然を素材にして、自分の思いや願いを生かした製作活動から自然に親しむ。
- 3学期 自然に意欲的にかかわり、働きかける。

(2) 実践から（学習指導要領の内容(3)(4)にかかわって）

地域教材の開発をする。

- ・ タンポポの根っこ調べ，ニホンタンポポとの比較，タンポポ地図作りをする。
- ・ 「なかよしの木」を決め，年間を通して写生する。
- ・ アサガオ，落花生，綿，種々の草花を栽培する。
- ・ アゲハチョウを卵から成虫まで飼育する。
- ・ アヒル，チャボとなかよくする。
- ・ クヌギの苗木を育てる。
- ・ ドングリだんごを作って食べる。

(3) 本単元の指導計画（18時間）

第1次 ドングリパーティーをしよう……………（7時間）

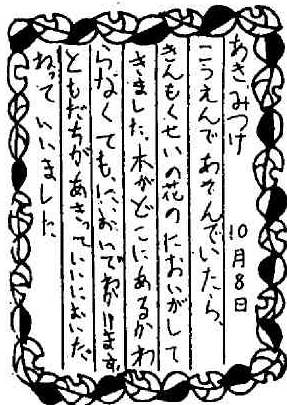
- ①秋の散歩（3時間）
- ②とっておきの秋の宝物作り（2時間）
- ③ドングリパーティー（2時間）

第2次 教え合って作ろう遊ぼう……………（6時間）

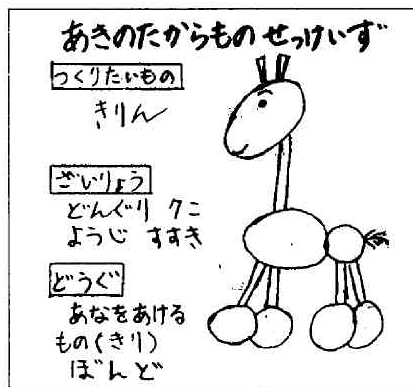
- ①集めて作ろうゲーム屋さん（4時間）
- ②秋の縁日（2時間）

第3次 秋の展覧会をしよう……………（5時間）

- ①残しておきたい秋の色（2時間）
- ②招待状作り（1時間）
- ③秋の展覧会（2時間）



<秋見付けカード>



<秋の宝物作りの設計図>

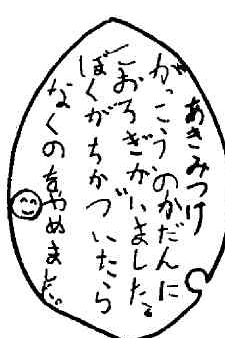
(4) 展開（10月～11月）

活動	活動のねらい
秋の散歩（3時間）	校庭の「なかよしの木」の様子が変わったことに気付く。 (1時間)
	校庭や原っぱで遊ぶことを通して夏とは違



なかよしの木は、11月3日はどんぐりが落ちてみえました。だたのけいはいはちいすにながあちいました。どうしてかなともいえました。😊

校庭や原っぱで遊ぶことを通して夏とは違

児童の活動	指導の手立て・教師の支援等	学習状況の把握（評価規準・方法等）		
		関心・意欲・態度	思考・表現	気付き
<p>○最近、動植物の様子が変わってきたことについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫の鳴き声が聞える ・ススキの穂がきれい ・ドングリが落ちてる ・ハナミズキの葉が赤い 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会での季節の変化に関連した発言や春の校庭の写真を手掛かりとする。 ・児童が見つけてきた草木の葉や実、虫を提示する。 ・発見を多く認める。 	<p>校庭の「なかよしの木」の変化に関心をもつ。</p> <p><発言></p> <p><行動観察></p> 		
<p>○「なかよしの木」の様子を見に行く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丸い大きな実だね ・茶色のドングリだ ・はっぱは変わらない ・ドングリのぼうしだ ・拾って遊びたい ・食べたい、育てたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の変化に気付いたつぶやきを賞賛する。 ・6月のクヌギの枝を提示し、変化に気付くようにする。 ・触ったり拾ったりしてかかわらせる。 			<p>夏の頃の様子と変わるところに気付く。</p> <p><行動観察></p> <p><つぶやき></p>
<p>○変化した木を絵に画く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実が大きくなった ・実が緑から茶色に 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏と同様、絵で表現し、変化に気付くようにする。 		<p>発見した「なかよしの木」の変化を絵に画く。</p> <p><作品></p>	
<p>○ドングリ以外の秋を見付けようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原っぱに行こう ・くつつく実があるところを知ってるよ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドングリ以外の秋にも関心を広げよう、秋見付けをしようと呼びかける。 			
<p>○秋見付けに校庭や原っぱに行く。</p>	<p>○自由に活動し、秋を見付けたり、自</p>	<p>自然の変化を探そうとする。</p>		

5. 授業の実際 (7/18時間 ドングリパーティー)

(1) ねらい

- ①自分なりのとっておきの秋の宝物を発表することができる。
- ②友達の商品のよさを認めたり、自分の作品について振り返ったりすることができる。

(2) 展開

児童の活動	児童の思い・願い	指導の手立て
1.とっておきの秋の宝物を発表する。 ①木の葉グループ。 絵・お面・うちわ・かんむり・時計 ②木の実グループ こま・人形・楽器・首飾り・けん玉・絵 ③ススキ、綿グループ 人形・壁かけ ④虫グループ 声集め・クイズ・歌	自分なりのとっておきの秋の宝物を友達に教えてあげたい。 楽しい会にして、ドングリだんごを食べたい。 苦労したところや工夫したところを分かっしてほしい。 作り方を知りたい。 すごいな。よく工夫しているな。	○「友達に分かるように発表し、自分たちで作ったドングリだんごと落花生を食べておいわいの会にしよう。」 ○発表の仕方(話型と約束)と聞き方を指導する。 ・「○○と△△を使って作りました。自慢したいところは○○です。」 ・「ぼくは○○を作りました。むずかしかったのは○○です。」 ○多様な表現方法で、その子なりに自分を表現できるようにする。 ・動作化、作文、クイズ、歌、録音
3.ドングリパーティーを振り返る。 自己評価、相互評価	よくがんばったな。 ○○さんはよかった。 次は○○を作りたい。	○振り返りカードを用意する。 ○発表の様子や聞く態度のよくできたところを笑顔で話す。

(3) 学習状況の把握について(例 A児) 毎時間、学習内容に対しての状況や育てたい能力。

事前の調査	項目/時数	①「なかよしの木」の観察	②校庭での秋見付け
虫を飼った経験、	児童の実態	自然にかかわる体験の不足。	秋見付けの宿題ができない。
木の実等で製作した経験がない。	その時間の教師の願い	自然に関心を持ち、触れ合い楽しむ体験をしてほしい。	前時の発見を生かし、自分の力で秋を見付けてほしい。
道具は、ハサミとカッター、絵の具を使ったことがある。	活動の様子 自己評価 教師の支援	ていねいによく見て画く。実が頭に落ちた。痛いよ。◎ 木の枝をよく見てていねいで	クヌギの実を拾う友達について8個見つけて笑顔。◎ ○○君と共にやろうと友達に目を向けさせる助言。



わたしのこころをのびのびと
わたりはらわたりのさやをく
りまじらしたまなをのびのびと
くまらさきつがわらわらと
ははははとあはれしかりもっ
ておまにねます。んがをえん
ないですぐはりからあはれし
ます。くアイもてはかんじ
なかなかにとてこがはめた
ても



教師の支援	学習状況の把握（評価規準）
<p>○その子なりの発表を認め、努力を賞賛することで、自信がもてるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「とっておきの秋の宝物」を表現するために、その子なりに取り組んだ過程を含めて受容し共感する。</p> </div> <p>①理解する（顔を見つめて聞き、うなづいたりする）</p> <p>②見守る（発表をありのまま受け入れ、安心感をもたせる）</p> <p>③自信をもてるような声かけをする</p> <p>「ここを工夫していたね、何回もやり直して作ったね。」</p> <p>「こう話したかったのね。よく分かりました。」</p> <p>「すごい。とっておきの秋の宝物ができました。」</p> <p>「詳しく分かりやすい発表でした。〇〇名人ですね。」</p> <p>「アイデアがいいね。苦労して作っていました。」</p>	<p>〔思考・表現〕</p> <p>とっておきの秋の宝物を自分なりの方法で発表することができる。</p> <p><発表><行動観察></p> <p>〔気付き〕</p> <p>作品や発表を見たり聞いたりして、友達の努力した点や工夫した点に気付くことができる。</p> <p><行動観察></p>
<p>○記入がなかなかできない児童には、思い出しを促す助言、次の活動を促す助言をする。</p>	<p>〔気付き〕</p> <p>自分や友達のがんばりに気付く。<カード><発言></p>

活動の様子と自己評価、教師の支援を、学級全員記録した。（活動に満足した自己評価は◎）

③原っぱでの秋見付け	④⑤秋の宝物作り	⑥だんご作り	⑦発表会（本時）
クヌギの実を見付けた。	ドングリで馬を作りたい。	経験がない。	声が小さい。苦手。
四季の変化に気付くようになってほしい。	発見したクヌギの実を使って製作してほしい。	自分で作る楽しさを体験させる。	自信をもって発表してほしい。ほめたい。
コスモスだ。お母さんにあげたいな。 ◎	錐で、実に斜めに穴をあけ、こまと馬を作る。◎	笑顔で作る。前時の自信。 ◎	考え考えだがしっかり笑顔で発表する◎
やさしいね。きっと喜ぶよ。夏に咲いてたかな。	よく回るね。斜めの穴が上手。よさに気付かせる。	きれいに丸くなった。認め賞賛	全員で拍手。過程を補説して賞賛する。

6. 実践を振り返って

(1) 学習状況の把握

- ア. 年間を見通し地域教材を開発して、春から自然に体で触れ合い親しむ活動の継続を図ってきた。この単元では、児童の意識の流れに即し地域の実態を生かした「なかよしの木」クヌギの変化を中心として展開し、秋見付けや製作、発表に活動意欲を高めていった。
- イ. 事前の実態調査から単元を通しての一人一人の児童の願いと教師の一人一人への働きかけのポイントを明確にし、願いの実現状況を児童の様子等から分析した。
- ハ. 教師の支援の具体化を図るため評価規準を設定し、それに基づいて児童の実態を把握した。学習の導入段階では、季節の変化の発見、気付き、驚きを児童のつぶやきや行動、絵や「みつけたよカード」から分析把握した。学習の展開場面では、自分なりの秋の宝物作りに友達と教え合い、夢中になって取り組んでいる姿や表情、作品、絵カード、作文から把握した。学習の発展期では、秋を味わう「ドングリだんご」作りと発表会で、活動を振り返り、自分への自信と友達のよさへの気付きを認めていった。

(2) 支援の在り方

- ア. 「その子らしさを育てる」ことを念頭に、一人一人への支援計画を実態を基に毎時間たてた。また、毎時間の児童の活動の様子と具体的な支援を記録し、児童のよさの伸長やつまづきを克服するための個に応じた支援の積み重ねで、活動意欲が高まり変容していく姿を見とることができた。また、変容させる言葉や情報提示の在り方も明らかになった。
- イ. 季節の変化に関心をもつためには、つぶやきや発言に発見や気付きを認め、受容し、励ましていくことで、秋見付けの活動意欲が高められ、諸感覚を使って自然にかかわっていく姿を見取った。自然のものを使って遊ぶものを製作する活動では、児童の様子を瞬時に見取り、一人一人に応じて、見守り、励まし、助言し、さらに情報の提示や友達へ目を向けさせる支援で、活動意欲を高めさせた。発表会では、児童の活動してきた過程を認め補説する助言で、児童は自分自身のよさに気付き自信をつけた。さらに友達との交流から、友達のよさにも気付き、人とのかかわりが深められ、次の活動への意欲を高めていった。
- ウ. 「座席表指導案」等も使い、即時的な支援とともに次時の支援への見通しを立てた。

(3) 今後の課題

- ア 児童の学習状況を的確に把握するため、作品や行動、発言を分析する力を磨く必要がある。
- イ 地域や児童の実態に即した地域教材の開発と、単元の導入時の工夫も大切である。
- ウ 錐やカッターなど道具の使用で活動は広がるものである。意識して体験を多くさせたい。

VII 研究の成果と今後の課題

1. 研究を通して明らかになったこと

本年度は、「一人一人の児童の活動意欲を高めるための支援の在り方」という研究主題を設定し、授業を通して検証してきた。その結果、次のようなことが明らかになった。

(1) 学習状況の把握について

ア. 単元にかかわる児童の実態を把握する。

一人一人の児童が、どのような願いをもち、どの程度の生活体験を持っているのか、どの程度の興味関心を示しているのかを詳しく知るために、各単元に入る前に実態を調べてみた。調査の結果を分析し、単元のねらいに即して一人一人の児童の思いや願いを明確にするとともに、教師の一人一人の児童への働きかけのポイントを明らかにした。その結果、児童の願いを生かし地域の実態等に即した指導計画を立てることの大切さが分かった。

イ. 評価規準を設定し教師の支援を工夫する。

児童の願いを生かした指導計画に伴い、各単元ごとに評価規準を設定し、毎時間ごとに評価計画を立てた。その結果、支援の方法を具体的に考えることができるようになり、一人一人の児童に応じた支援の在り方が明らかになってきた。

ウ. 児童の行動、発言、つぶやき、作品、表情を分析的にとらえる。

一人一人の児童の思いや願いの実現状況を的確に把握するため、様々な方法を取り入れたり、一つのカードに書かれた文字や絵なども多様な角度から理解したりするよう努めた。その結果、一人一人の児童の思いや願いと教師の児童への働きかけのポイントとの間にずれがあることが明らかになり、教師の支援の在り方を見直すきっかけとなった。

エ. 継続的に児童の活動の様子を記録する。

短期間で児童の変容を見とることは困難であるし、誤った見方をしてしまうこともある。そこで、単元全体を通して継続的に児童の活動の様子を記録し、分析していくと、児童が変容していく姿や現在の児童の様子を見とることができる。その結果、児童への新たな指導・助言の方向性を見出すことができるようになった。

(2) 支援の在り方について

生活科の授業を進めるに当たっては、的確な学習状況の把握に基づいて、適切な支援をしていくことが重要である。そのために、単元の指導計画の中に支援計画を位置付け、導入時、展開時、終末時の児童の活動ごとに、あらかじめ予想される問題とそれに対応するための支援を考えておくことが必要である。

また、一人一人の児童の願いを明確にし、一人一人の児童への毎時間の支援計画を立てることも必要である。そのためには、事前に実態把握を行い、毎時間の児童の活動の様子や発言、気付きなどを記録にとり、教師の言葉掛け等の支援の記録などと関連付けて分析し、児童の変容をとらえていくことが大切である。それが、教師の確かな支援へと結び付き、児童の活動意欲の高まりとなって表れてくると思われる。

具体的な支援の方法やその際留意すべき点等については以下の通りである。

- ア. 指導計画の中に支援計画を位置付け、ある程度類型化して支援に生かすように試みた。例えば<ウサギさんとなかよしになろう>の学習では、ウサギと遊ぶ場面で①ウサギに近づこうとしない児童には、さそいの声をかける、②ウサギに触れることのできない児童には、教師が手を添える等、③ウサギを抱くことのできない児童には、友達の抱いているウサギを教師が手を添えて抱かせる等、④ウサギと十分に遊べる児童には、ほめる、グループの友達に抱き方などを教えるよう促す、等の具体的な助言を考えた。
- これにより、授業の中で、児童の様子を瞬時に見とり支援していくことが容易になった。

- イ. 児童の状況を類型化して把握することは、支援を容易にするが、児童の実態と教師の見とりずれがあると誤った判断を下すもとになる。例えば上記のアで、①の類型と教師が判断していた児童が、2日間のうちに③の類型まで意欲が高まっており、教師の支援がなくても友達の励ましでウサギを抱くことができた。

児童を固定観念で見ず、常に児童理解を深めようとする努力が大切である。

- ウ. 支援計画を立てる際には、児童のつぶやきや発言を的確にとらえたり、カードや作品に表れた児童の思いや願いを見とったりして、その後の支援計画に組み込んでいくことが大切である。例えば<とびだせたんけんたい>の学習では、一回目の探検での児時の「自転車が落ちてたよ」というつぶやきをとらえ、『ゴミ・自転車探検隊』として二回目の探検に生かしたことで、消極的だったA児が、意欲的に活動するようになったと思われる。

2. 今後の課題

- (1) 学習状況の把握には多様な方法があるが的確な判断・解釈をするためには、教師の力量を高める必要がある。
- (2) 単元の指導計画作成に当たっては、地域の実情や児童の実態に即した年間指導計画との関連を図るとともに、児童の活動意欲を促す教材開発が必要である。
- (3) 子供のよさ・可能性の発見を実践的に行うことが求められる。そのためには、一人一人の児童の活動を具体的に記録するとともに、それを生かすことが大切である。